



2017.3 No.34

たてやま おらがんまつち

南総祭礼研究会

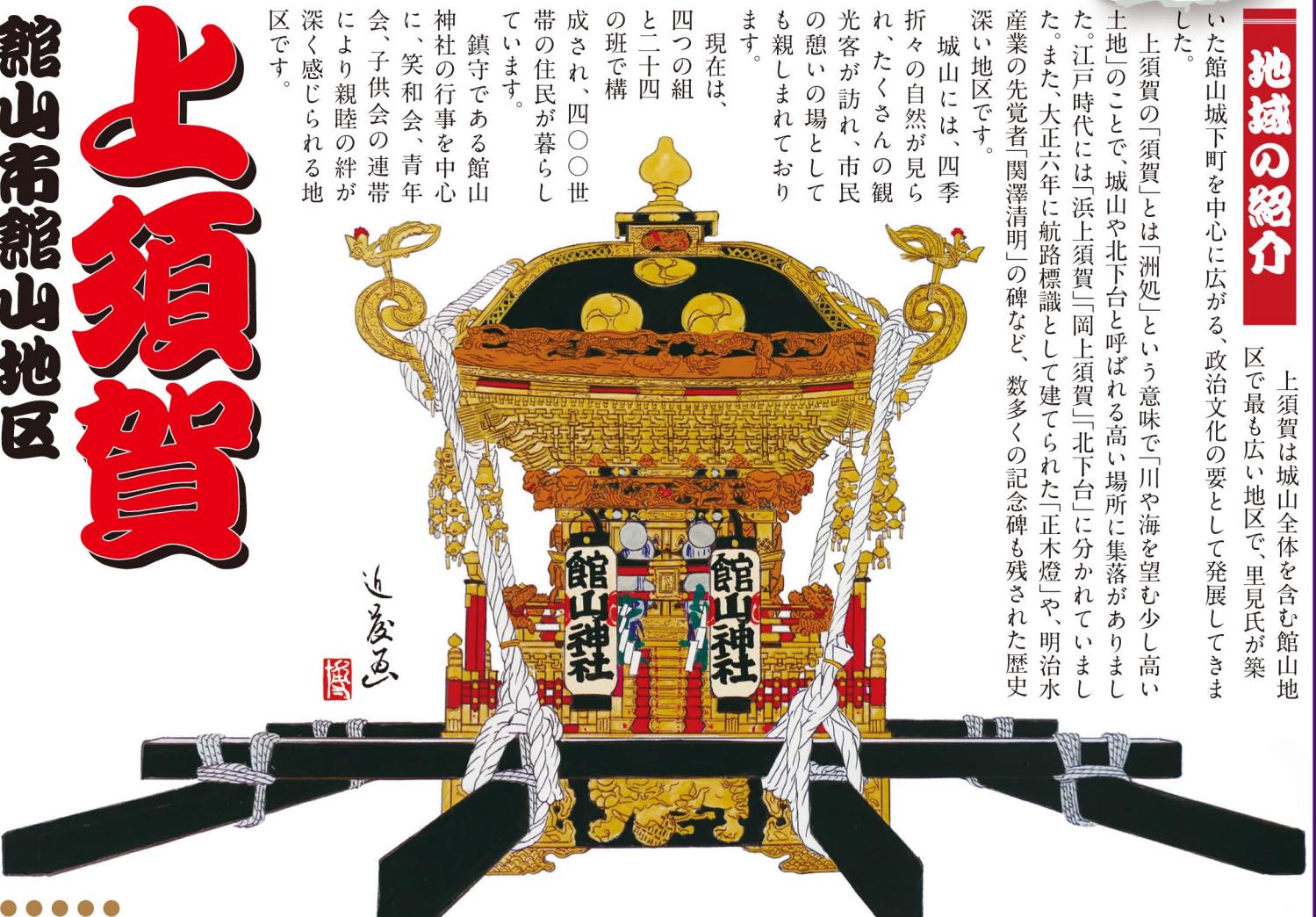
館山市
館山地区

上須賀

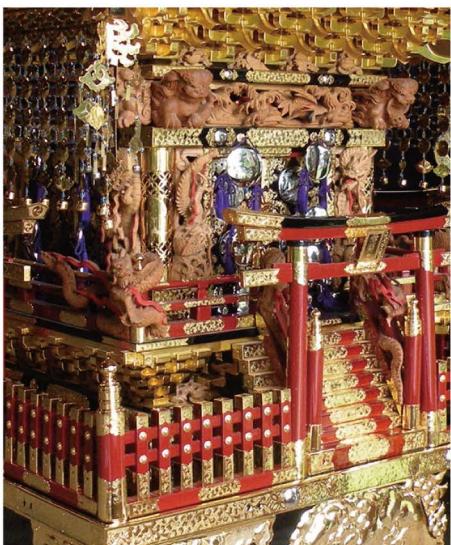
館山市
上須賀地区
は、四季折々の自然が見られ、たくさんの観光客が訪れ、市民の憩いの場としても親しまれています。

現在は、四つの組と二十四の班で構成され、四〇〇世帯の住民が暮らしています。

鎮守である館山神社の行事を中心に行和会、青年会、子供会の連帶により親睦の絆が深く感じられる地区です。



- 神社名: 館山神社(旧八坂神社)
- 屋根: 延屋根方形一直線型
- 藤手: 普及型
- 露盤: 樹型
- 胴の造: 二重勾欄
- 外組: 五行三手
- 屏: 四方扉
- 鳥居: 明神鳥居
- 台輪: 普及型
- 台輪寸法: 三尺八寸
- 制作年: 明治二十九年
- 大工: 羽山権兵衛
- 錫師: 滝川嘉吉
- 彫刻師: 後藤利兵衛橋義光、後藤福太郎橋義道
- 塗師: 鶴岡政吉、仲村清吉
- 施工: 千倉駅



金錆装飾と漆塗と彫刻が美しく調和した神輿



大神輿に負けない装飾が施された立派な小神輿



吹返しをつけた神輿姿(上)と吹返し彫刻(後藤福太郎橋義道作)

地域の紹介

上須賀は城山全体を含む館山地区で最も広い地区で、里見氏が築いた館山城下町を中心に広がる、政治文化の要として発展してきました。

江戸時代には「浜上須賀」「岡上須賀」「北下台」に分かれています。また、大正六年に航路標識として建てられた「正木燈」や、明治水産業の先覚者「関澤清明」の碑など、数多くの記念碑も残された歴史深い地区です。

城山には、四季折々の自然が見られ、たくさんの観光客が訪れ、市民の憩いの場としても親しまれています。

現在は、四季折々の自然が見られ、たくさんの観光客が訪れ、市民の憩いの場としても親しまれています。

自慢の神輿

明治二十九年、旧八坂神社の神輿として制作されました。大工棟梁は北条南町の羽山権兵衛錫師は長須賀の滝川嘉吉、塗師は相浜の鶴岡吉、仲村清吉、彫刻師は初代後藤利兵衛橋義光と次男の後藤福太郎橋義道、三代目後藤義光によるものです。

その後、昭和十一年、五十二年、平成二十年に大改装され現在に至っています。平成八年には、奉納百年祭が催行されました。

金錆装飾と漆塗で美しく飾られた本体ときめ細やかで迫力のある見事な彫刻がところ狭しと施されています。

また、上須賀の神輿の特徴として、神輿屋根四面に飾られる、後藤福太郎橋義道作の「吹き返し彫刻」は、美しい神輿をさらに神々しく惹き立てます。均整のとれた細部までこだわった美しさが自慢の神輿です。

また、上須賀地区は大神輿に負けないくらいの美しく立派な子供神輿があり、祭礼時には大神輿と子供神輿の競演も見どころとなっています。